

## Special Contents

## 「SDGs研修」を通して体験し学び、明日の課題解決へ

オカムラグループは経営理念「オカムラウェイ」を通じて、すべての人々が笑顔で生き活きと働き暮らす社会の実現に貢献するため、サステナビリティへの取り組みを推進しています。その一環として、SDGsというキーワードを通してグループ会社を知り、仲間を知り、自然に学びながら、サステナビリティの視点を日々の業務に落とし込むヒントを探りたい。そうした目的で、オカムラの従業員などがグループ会社である岩手県釜石市のエヌエスオカムラ（以下NSO）を訪れ、「SDGs研修」を実施しました。

オカムラグループとのつながりが深い  
岩手県釜石市がフィールド

参加したのはオカムラグループの21名と事務局のメンバーなど。営業、生産、デザインなどの多様な職種のメンバーが集まり、遠くは名古屋からも。営業部門の人は「SDGsの観点からお客さまに提案する機会が増えたので学びを深めたい」、生産部門の人は「他拠点の現場を知りたい」など、それぞれに目的を持って参加しました。2022年8月26～27日に研修を実施。初日はまずNSO会議室で、SDGsの基本やオカムラグループのサステナビリティの取り組みを学ぶところから始めました。さらにはNSOについて、そして三陸復興国立公園の中心に位置する釜石市について紹介。「ラグビーのまち釜石」において「釜石鶏住居復興スタジアム」のスタジアムベンチをNSOとオカムラが手がけるなど、オカムラグループと釜石市の深いつながりについても改めて紹介されました。



研修参加メンバー

エヌエスオカムラの東日本大震災  
における被災・操業停止から  
省エネ大賞受賞までの歩みを学ぶ

続いては、東日本大震災からのNSOの歩みを振り返りました。旧工場は津波で壊滅。2012年5月に新工場で操業を再開しましたが、工場整備のためのコストが重くのしかかる中でのスタートでした。また「省エネ法」による規制対象にもなり、コストダウンやエネルギー使用量の削減を図るために省エネ対策活動を展開。塗装ライン工程の抜本的なプロセス改革により、CO<sub>2</sub>排出量削減に取り組みました。これが評価されて、平成28年度の「省エネ大賞」省エネ事例部門経済産業大臣賞と、環境省「循環型社会形成推進功労者環境大

臣表彰」を受賞しました。

研修では現在のNSOの工場を見学し、効率化・省エネなどを体感。さらに「震災の記憶研修」として、今も工場などに使用されている旧工場を訪問しました。そこから震災当日多くの従業員が避難した公園への道を歩きながら話を聞き、震災について実感するとともに改めて考えることができました。



旧工場見学



震災当時の避難経路を歩く



オフィス環境事業本部  
ライフサイエンス事業部  
パブリック推進部  
パブリック設計センター

菅原 美咲

## SDGsを「自分事」として捉える良い経験になりました

SDGsについて理解を深め、自分の言葉で話せるようになりたいと思い参加しました。また、NSOには業務でお世話になっているものの訪問する機会がなく、工場の様子を見たり従業員の方々と交流を持たらうれしいという期待もありました。NSOで実際の取り組みを見て、そして漁業体験などを通して、身の回りの多くのことがどれもSDGsの目標に結びつくのだという気づきがありました。環境問題以外にも「働きやすさ」「暮らしやすさ」など考える対象は多く、自分にできることもたくさんあると実感。研修では実際に歩いたり手を動かしたり、セミナーや勉強会とはまた違って、体感することが自然に学びへとつながりました。また、さまざまな部署、職種の方々と一緒に過ごし、日頃の業務に活かせるよい交流関係を築けたのもよかったです。

## 釜石ならではの漁業体験を通じて SDGsのさまざまな目標を体感

研修2日目は、釜石のまちならではの自然を体験しようと、特定非営利活動法人 NPO おはこぞき市民会議のメンバーにご案内いただいて漁船に乗り、海上でほたて養殖の現場を見学しました。さらには貝殻に付いた貝や海藻を取り除く「はたき」と呼ばれる作業も体験。きれいになったほたてを焼いて食べました。

この漁業体験では漁師の方から、後継者問題、ゴミやプラスチックなどによる海洋汚染、気候変動による漁獲量の減少など、地域が抱えるさまざまな問題を直接聞くことで、社会全体のSDGsについても考えるきっかけに。参加者からは「大都市から離れた地方のロケーションで研修を行う意義が十分に感じられた」「日本が現在抱えている漁業問題について生の声を聞いてよかった。大変な思いをして養殖を行っている作業を見て、食べ物を無駄にしないという意識が高まった」

などの声も寄せられました。

また、この漁業体験はSDGsが目標として掲げる「気候変動に具体的な対策を」「海の豊かさを守ろう」「住み続けられるまちづくりを」などを具体的に考えるきっかけとなる貴重な体験でした。多くの課題に真摯に向き合うことが持続可能な社会への第一歩となります。



ほたての「はたき」作業



漁船に乗って漁業体験

## ワークショップを通して 研修での体験を仲間と語り合う

研修では、まとめとして各グループでSDGsについてのワークショップを行って発表。個人だけではなく、グループでも考える作業でしたが、みんなで共通の体験をしているため、打ち解けた中で活発な意見のやり取りが行われました。リアルで対面しながら話し、お互いをより深く理解することの大切さも改めて実感。また、参加者全員でシェアすることにより、新たな気づきもたくさん生まれ、それぞれの働き方やプライベートでも今後生きるヒントを得ることができました。一人ひとりが次の一歩を踏み出すためのよい機会となりました。



ワークショップの様子



グループワークで意見を出し合う



エヌエスオカムラ  
技術部 品質管理課  
藤原 優斗

### 体験を共有し学び合うことは、とても意義があると感じます

工場見学では案内役として細かい部分まで説明しましたが、気になったことはどんどん質問していただいたので、皆さんがNSOのことを知りたいという気持ちを感じてうれしくなりました。漁業体験では地元にもできない貴重な経験をしましたが、漁船に乗った生けす見学では釜石の大自然を感じてもらえたと思います。ほたての「はたき」では皆さん無言になるほど黙々と作業されていて笑ってしまいました。

ワークショップでは、地元の人間では気づけない釜石の魅力や逆たくさん教えてもらい、釜石に住んでよかったと感じました。今まで電話やメールでやり取りした方もいましたが、コミュニケーションが深まり、リアルで会うことの大切さも改めて認識しました。

東日本大震災から私たちNSOの従業員が感じたことや学んだことを、参加者の皆さんに素直に伝えたいという想いもありました。実際の避難経路と一緒に歩きながら、復興した後の街並みと当時の街並みを見比べてもらい、より状況を感じていただけたと思います。この地でのSDGs研修の実施は、震災からの学びやみんなで助け合って生活した体験を共有することもでき、非常に意義のある研修だと実感しています。

## 研修やイベントを通じて従業員 一人ひとりの行動変容を促す

オカムラグループの各事業におけるサステナビリティ推進に向けては、従業員一人ひとりの意識向上と行動変容が重要であると捉えています。そこで、従業員を対象にしたさまざまな教育研修・イベント、ワークショップなどを実施。今回の「SDGs研修」もその一つです。こうした取り組みを通して、各人の「知識・理解・体験」から次の「行動」を促すよう、そして本業を通じた社会貢献の活性化が図れるよう、これからも広く積極的な活動を続けていきます。